

平成の先に輝く ITソリューション



野村総合研究所
取締役会長

しまもと ただし
嶋本 正

昨年来、「平成最後の」という表現をよく耳にしてきたが、この『ITソリューションフロンティア』も、本号がまさに平成最後となる。ここでは、平成の時代におけるITソリューションの進展を振り返るとともに、平成の先にさらに期待が膨らむITソリューションの姿について考察する。

まず、ITソリューションを取り巻く技術トレンドが平成の時代を通じてどう変遷してきたかを振り返る。大きく4つの変化に注目したい。平成初期には、それまでメインフレーム（大型汎用コンピュータ）ばかりだったITの世界に「オープンシステム」が登場した。当初は、脆弱^{ぜいじやく}にしか見えないハードウェアやソフトウェアによって従来の堅牢な仕組みを置き換えるなど想像もできなかったが、オープンシステムは急速にその力を増すことになる。次に、20世紀終盤にかけて注目されたのが「Webとインターネット」である。それまでは、データセンターにある高価なコンピュータを利用できるのは、企業の事務部門などに置かれた専用の端末からだけと考えられていた。それが、誰もが廉価なPCとインターネットを通じて情報の検索や送受信、さらにはネット取引ができるようになり、IT利用が大きく広がった。21世

紀に入ると「SaaSやクラウド」が出現する。Webやインターネットを利用するにしても、データの管理や業務処理は、大手企業やITサービス企業のコンピュータもしくは手元のPCなど、目に見えるところでなされるのが当たり前とされていた時代である。それがインターネットの向こう側の見えないクラウドの中で行われることになった。平成の最後にかけての大きな変化が、IoTなどを通じて集まる膨大な情報から成る「ビッグデータ」の出現である。音声や画像、位置情報など、従来のITの世界にはなじみの薄かった情報も含めた多様なデータを共有し、AIなどを駆使して活用できる道が拓けた。

平成時代のITの技術トレンドは、昭和のメインフレームを中心としたクローズドな世界から脱し、オープンシステム、Webとインターネット、SaaSやクラウド、ビッグデータと順を追って、オープンな世界へと拡がっていく流れであったといえる。

以上のような技術トレンドのなかで、企業のIT部門やITサービス企業がユーザーに提供するITソリューションも、変化に対応しながら新たな価値を生み出し続けてきた。オープンシステム出現の際は、それまでのメインフレームベンダー依存の環境の中では考

える必要がなかった、情報システムを構成する機器やソフトウェアを選定し、それらを整合性をとりながら円滑に連携させる「マルチベンダーインテグレーション」が新たなITソリューションに加わった。次のWebとインターネットの時代には、それまでとは比べものにならないほどユーザーの数が増え、研修などで訓練されることのない普通の生活者が情報を活用することになる。使い勝手やユーザーインターフェース（UI）を分かりやすく容易にすることに重点が置かれるようになり、ITソリューションの1つとして「UIデザイン」が生まれることになった。そして21世紀に入ってからSaaSやクラウドの時代には、自分が保有しなくともクラウド上の目に見えないコンピュータが活躍してくれるありがたさの裏に、気付かないうちに不正なアクセスなどにより情報が漏えいするリスクが生じるなど、情報管理面での対策が欠かせないものとなってくる。ここに「情報セキュリティ」がITソリューションの大きな役割となった。平成最後の、ビッグデータの多様で膨大な情報の活用局面においては、「データアナリティクス」が注目されるようになる。データの分析手法は言うまでもなく、それまであまり縁のなかった統計学の理解や、データをビジネスや業務に生かすための能力も必要とされるようになり、ITソリューションに新たな世界が追加されることになった。

以上のように、ITソリューションは平成の時代を通じて、主要なものとしてマルチベンダーインテグレーション、UIデザイン、情報セキュリティ、データアナリティクスを、新たな価値として加えたといえるのでは

ないだろうか。

それでは、平成の次の時代に期待されるITソリューションはどのようなものになるのだろうか。本格的なデジタル化時代に入りつつある今、企業や公共機関では、デジタル化を通じてさまざまな変革を成し遂げようという動きが加速している。DXとも表現されるデジタルトランスフォーメーションである。現実の世界で発生する大量で多様なデータがIoTを通じて速やかに収集され、クラウド上でビッグデータが形成される。それを元に、データアナリティクスやAIなどを駆使することにより変革を成し遂げようというものである。現時点では、従来の業務プロセスを効率化したり、製品やサービスの品質向上を図ったり、コスト低減を目指したりする変革が中心である。しかし、DXの本領はデジタル化時代における新しいビジネスモデルの創出にあり、DXにより新しいサービスを展開したり顧客を創造したりすることで、ビジネスを拡大することであろう。

そして、平成の先の新たな時代におけるITソリューションは、まさにこの新しいビジネスモデルの創出にいかんにかに資することができるか、その価値を問われることになる。従来の情報システムやITなどの専門分野のクローズドな世界から、それらを活用して事業や顧客を拡大するリアルビジネスのオープンな世界に打って出ることが価値向上に欠かせない。ITソリューションを提供する企業のIT部門やITサービス企業には、それに向かって自らの新しいビジネスモデルを打ち立てる夢と覚悟を持つことが求められる。 ■